

# WORKO!

「働く」と「子育て」のこれからを考える

WORKO!プロジェクトは7月、40～50代女性を応援する「Aging Gracefullyプロジェクト」と「働く女性とウェルビーイング」がテーマの勉強会を開きました。

基調講演は、内閣府経済社会総合研究所の林伴子次長（前男女共同参画局長）が「日本の男女共同参画・ジェンダー平等の課題と展望」について語りました。日本の「ジェンダーギャップ指数」が先進国で最下位だったことに触れ、「教育と健康の値は良い一方、政治と経済の参画が遅れている」と指摘。「男性は仕事、女性は家庭」という意識や、政策や制度、長時間労働な

## ジェンダー平等 “女性の視点”で社会保険・税制の検討を

どの慣行が背景にあると挙げました。

また、長寿化と共に、結婚が減り離婚が増えた「家族の姿」の多様化をデータで解説。「昭和時代に作られた社会保険と税制の扶養の仕組みは、就業調整を増やし、離婚すると経済的困窮に陥るリスクを高めていないでしょうか」と疑問を投げかけ、6月に政府決定した女性版骨太の方針で「女性の視点から見た制度の検討」も盛り込んだと語りました。

続いて、特定社会保険労務士の新田香織さんが「子育てもキャリアも大切に作る働き方」について講演。4月と10月の法改正

で注目されている「男性育休」について説明しました。女性の育児休業の取得率は8割を超える一方、男性は21年度に13.97%。10月に「産後パパ育休」が始まると、パパが子どもの出生後8週間の中で最大4週間まで育休が取れ、2分割できるように。男女ともに1歳までの育休を分割できるなど、制度が柔軟に変わります。

男性の取得時期は、「産後8週間」と「妻の職場復帰時」がポイント。「女性だけが育休を取るのではなく、2人で交代しながら利用する。制度と共に意識も変わってほしい」と話しました。



「働く女性とウェルビーイング勉強会」で講演する林伴子さん＝朝日新聞東京本社

## 注目の5本

- ① 「人生100年時代」にそんなに早く「お迎え」は来ません
- ② 男性育休、どう変わる？ 新制度を上手に使いこなすには
- ③ 子どもに「学校に行きたくない」と言われたら
- ④ 「しなさいと言わない子育て」が子どもの好奇心や主体性を伸ばす
- ⑤ 熱帯夜でもぐっすり眠るには？ 専門家に聞く室温調整のコツ

WORKO!(ワーク)は、「働く(WORK)」と「子育て(KO)」を頑張るママ・パパを応援するプロジェクト。保活や育休後の働き方、パートナーとの関係、教育費の準備など、皆さんの悩みに寄り添い、一緒に解決策を探します。

